

令和 8 年 4 月 9 日

令和 7 年観光入込調査結果について

～令和 7 年 1 月 1 日～令和 7 年 12 月 31 日の 1 年間の入込客数調査結果を報告します～

令和 7 年は、観光消費額及び外国人観光宿泊客数が過去最高を記録。

令和 7 年の観光入込客数は、前年から 12.5 万人増の 313.1 万人（R6 年 300.6 万人）となり、対前年比 104.2%の伸びを示しました。内訳として、宿泊客数は 92.0 万人（R6 年 82.9 万人）で前年比 110.9%、日帰客数は 221.1 万人（R6 年 217.6 万人）で前年比 101.6%となり、宿泊客数・日帰客数ともに増加しました。

外国人宿泊客数については、115,757 人（R6 年 67,031 人）となり、対前年比 172.7%と大幅な増加を示しました。

また、観光消費額は、149 億 2,467 万円（R6 年 142 億 9,282 万円）で対前年比 104.4%と増加しました。なお、一人当たりの消費額（消費総額／入込客数）は 4,767 円（R6 年 4,755 円）、100.3%の微増となり、幅広い客層からの訪問、宿泊があったものと推察されます。

※令和 7 年入込の特徴と増減要因については下記のとおりです。

[観光入込客数及び観光消費額]

	令和 7 年数値	令和 6 年数値	対令和 6 年比
観光入込客数	3,130.8 千人	3,005.7 千人	104.2%
府内客数	353.7 千人	379.3 千人	93.2%
府外客数	2,777.1 千人	2,626.4 千人	105.7%
宿泊客数	919.7 千人	829.3 千人	110.9%
日帰客数	2,211.1 千人	2,176.4 千人	101.6%
観光消費額	14,924,675 千円	14,292,817 千円	104.4%
宿泊消費額	10,298,371 千円	9,771,088 千円	105.4%
日帰消費額	4,626,304 千円	4,521,729 千円	102.3%
一人当たりの消費額	4,767 円	4,755 円	100.3%
宿泊消費額	11,197 円	11,782 円	95.0%
日帰消費額	2,092 円	2,078 円	100.7%
外国人観光宿泊客数 (再掲)	115,757 人	67,031 人	172.7%

◆令和7年入込の特徴と増減要因

(1) インバウンドについては、円安の影響による訪日ブーム、いわゆる「ゴールデンルート（東京—京都—大阪）」から地方へ分散するフェーズに変化したこと、海の京都DMOとの連携等によるプロモーションの効果等により、11万人を超え、対前年比172.7%と大幅な増加を示した。

国別においては、中国、香港（7月予言による減）が減少した以外は、英、仏をはじめとする欧米豪、台湾などのアジア圏を中心に増加傾向となった。

(2) 国内観光客においては、府外からの入込が2,777.1千人と約88%を占め、大きく増加した。データに基づくターゲット型プロモーションにより、京阪神をはじめとする全国からの誘客に繋がったものと推察される。

(3) 観光消費額は過去最高を記録しており、インバウンド宿泊客数の増加に加え、高付加価値化による宿泊単価の向上、物価上昇に伴う宿泊費・飲食費などの価格上昇が要因であると推測される。

(4) 一方で一人当たりの観光消費額は、100.3%と「微増」に留まっているが、これについては、インバウンドにおいて、高価格な施設を求める「富裕層」だけでなく、廉価な施設（民泊、ゲストハウス）を求めるカジュアルな層の入込など、客層の分散、多様化によるものと推察される。